

Sturm

シュトゥルム

今年も良い年になりますように！

皆様どんな新春を迎えられたでしょうか。また今年も心豊かに、充実した時を過ごせますようにと願い…TRAUBENをどうぞよろしく願いいたします。



伊都さん近況報告



バルの風景

ウィーンの冬は年が明けてから、ますます寒く、暗くなります。というのも一年の最大イベント、クリスマスが終わり、年末の華やかなコンサートプログラムに幕が下りるとその高揚感から一気に、お祭り後の取り残された切なさが街を覆うからです。一日中日差しのささない天気、時々思い出したように降るけれど積もらない雪、骨に直接響くような鋭い寒さ、この国の冬がなかなか手強い相手だったことを実感させられます。

そんな中でウィーンの人たちが楽しみにしているのが Ball(バル)と呼ばれる舞踏会です。TV中継もされる有名なオペラ座舞踏会を始め、1月から2月にかけて大学や警察、ウィーンお菓子協会主催の舞踏会が王宮や市庁舎などで計20回以上は開かれます。基本的に参加するのは自由で、自分が踊れなくても、さまざまにドレスアップしたたくさんの男女がいっせいに踊る様子を直に見られるのは、ヨーロッパならではの圧巻の景色。

3月に横浜山手のベーリックホールにて“世界からの手紙”と題してコンサートをしますが、そんなヨーロッパならではの空気を伝えることができればと思っています。

【伊都】



ピアノ 荒井裕子さんと

第7回加納伊都ヴァイオリンリサイタル

12月22日、恒例のリサイタルも第7回を迎え、クリスマス間近のみなとみらいホールで華やかに開催されました。

今年のおすすめ、ピアニスト荒井裕子さんもお得意のベートーヴェン、ヴァイオリンソナタ第3番も聴き応えがありましたが、最後の曲サンサーンス、ヴァイオリンソナタ第1番は、思わず曲に引き込まれてしまう素晴らしい演奏でした。

サンサーンスと言えば小学校で習った“白鳥”が頭の中に流れますが、それとは正反対の、印象的な主旋律と早いテンポの難曲。ピアノとの息もぴったりで、その日一番の大拍手となりました。

「へえー、サンサーンスってこういう曲もあるんだ」と思った矢先、アンコール1曲目にその“白鳥”！ ゆったりと美しい旋律は、なかなか憎い演出でした。

鳴り止まぬ拍手に2曲目のアンコールは、ご存じ“チャルダッシュ”伊都ワールド全開の楽しさに、観客の笑顔がこぼれました。

今年はドレスもラッキーカラーの赤に加え、後半は煌めく青のドレスで登場。一段と大人っぽくなり新鮮なイメージチェンジでした。



後輩の皆さんと一緒に

新垣勉さんとの共演

10月3日杉田劇場において、テノール歌手新垣勉さんのコンサートのゲストとして、「愛の喜び」「チゴイネルワイゼン」などお馴染みの小品を数曲演奏しました。後半は新垣さんの歌「涙そうそう」「千の風になって」「花」の伴奏をピアノと共に担当。新垣さんの堂々の歌声を彩り、新垣さんのファンの方も「ヴァイオリンが入るとますます素敵ですね。」と喜んで下さいました。(ちなみに、海外生活の伊都さんは「千の風になって」を初めて聴いたそうです・・・)



ピアノ石川和男さん 新垣勉さん

初めてのライブハウス

10月23日、馬車道近くのライブハウス「KAMOME LIVE MATTER」で、新しい試みとして、伊都さんのライブ演奏が実現。「パガニーニアーナ」など、あまり知られていないけれどお洒落でキュートな小品ばかりの選曲で、ライブハウスならではの至近距離とリラックス感と熱気の中、喝采を浴び伊都さんと観客、ともに最高に楽しい夜を過ごしました。(衣装もカジュアルなパンツスタイルです！)



JAZZっぽいけど実はクラシック

いとちゃんのクラシック講座

op.7

私は今、教会音楽学校にてオルガンを勉強していますが、このオルガンという楽器、紀元前から存在する世界最古の楽器の一つといわれ、さまざまな目的のために使われ、たくさんの歴史を持つ奥の深い楽器です。

まずオルガンはピアノと同じように鍵盤をたたいて演奏するため、鍵盤楽器と思われがちですが、実は鍵盤をたたいて、中にあるパイプに空気を送り込み、その空気が振動して音を出す、つまり音の原理としては笛と同じ、フルートやホルン、トランペットなど吹奏楽器の仲間になります。

そのため、ピアノの奏法とはまったく違います。ピアノは基本的に音を弾いた後の残響がないため、メロディーをきれいに聴かせるためには、音と音の間の時間を少なくして次の音に重なるようにつなげる、音楽用語ではレガートといわれる技術がとても大切なのですが、オルガンの場合、パイプの中で空気が振動を続ける間中、音は鳴り続けるので、一瞬でも次の音と重なってしまうと、音が重複してしまい必要のない重音が発生することになります。 (つづく)

【伊都】



3月にベーリックホールコンサート決定！

3月6日、横浜山手の西洋館ベーリックホールで、第4回横浜山手芸術祭のイベントとして加納伊都コンサートが開催されることになりました。最近ではテレビドラマのロケ地としても有名になったベーリックホール、伊都さんのコンサートは2年ぶりになります。詳細はベーリックホール(TEL045-663-5685)まで。



平成 22 年度会員登録更新と会費納入について

来年度年会費の納入をお願いする時期がやってまいりました。

加納伊都後援会TRAUBENは発足からもうすぐ丸2年が経とうとしていますが、お陰様で会員数は現在 60 名になりました。

とは言え、後援会主催のコンサートも今のところ年一回の、ささやかな後援会ですが、皆様のご支援でこれまでやってくることができましたことを厚く御礼申し上げます。

伊都さんの音楽を通じて、多くの皆様と繋がることができ、大変嬉しく思っております。

また来年度も、この会を皆様とともに楽しんで続けて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

*平成 22 年度(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)の年会費納入をもって、更新の手続き完了とさせていただきます。

*年会費のお振込みは、裏面記載の口座をお願い致します。

*年会費は振込み、郵送のほか、コンサート会場でも受け付けます。

*退会を希望される場合は、ご遠慮なくお申し出ください。

*年会費は一口 2,000 円です。



DVDクラシックコレクション

第3回 「ラフマニフ ある愛の調べ」

ロシア革命によりアメリカに亡命したラフマニノフの物語

2007 年ロシア映画

ストーリー 1920 年代、亡命後スタンウェイピアノの広告塔となり 100 ヲ所の全米ツアーで絶賛されるラフマニノフは次第に心を病み、作曲ができなくなっていたが、心は故郷ロシアを回想する。

見どころ 美しいロシアの大地の映像にぴったりの、流れるようなラフマニノフ「ピアノ協奏曲第 2 番」。

感想 「ラフマニノフよ、お前もか…」と言いたくなる、ちょっと屈折した頼りない天才の音楽を支える三人の美女。中でも終始彼の才能を信じ、愛し続ける妻ナターシャあつての天才と言える。作曲家であり名ピアニストとしてショパン、リストと並ぶ超絶技巧の巨匠は、やはり苦悩の人。ラフマニノフが 20 世紀のアメリカで成功し、ロス郊外の豪邸に住んだとは知らなかった。

*** 編集後記 *** 新垣勉さんのコンサートでは、ほとんどの観客が伊都さんを知らない、ヴァイオリンの演奏にもあまり馴染みがないと思われる状況でしたが、最後の“チゴイネルワイゼン”では会場の空気が変わり、身を乗り出し、頭上高く拍手して下さるお客様も居て、皆さんの喜びが伝わり、嬉しい思いでした。ライブハウスもそうですが、今までに経験したことのない、ジャンルを超えた舞台上に挑戦する伊都さんはひとまわり大きく、頼もしく見えました。 / リサイタルには多くの会員の皆様に来て頂き有難うございました。今回は前回リサイタルで録音されたCD(非売品)が当たる抽選会を行いました！4～5倍の確率で当たるはずだったのですが、周知不足の為か、賞品のCDが2枚残ってしまいました。次回に繰り越しますのでご期待下さい。《ゆ》

発行：加納伊都後援会 TRAUBEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15

TEL : 045-622-6780

FAX : 045-621-6423

Email : itoviolin-kouen@ac.auone-net.jp

Homepage : <http://www.ito-vn.jp/>

**後援会メールアドレスが変わりました。
ホームページもリニューアルされました。
ぜひご覧ください！**